

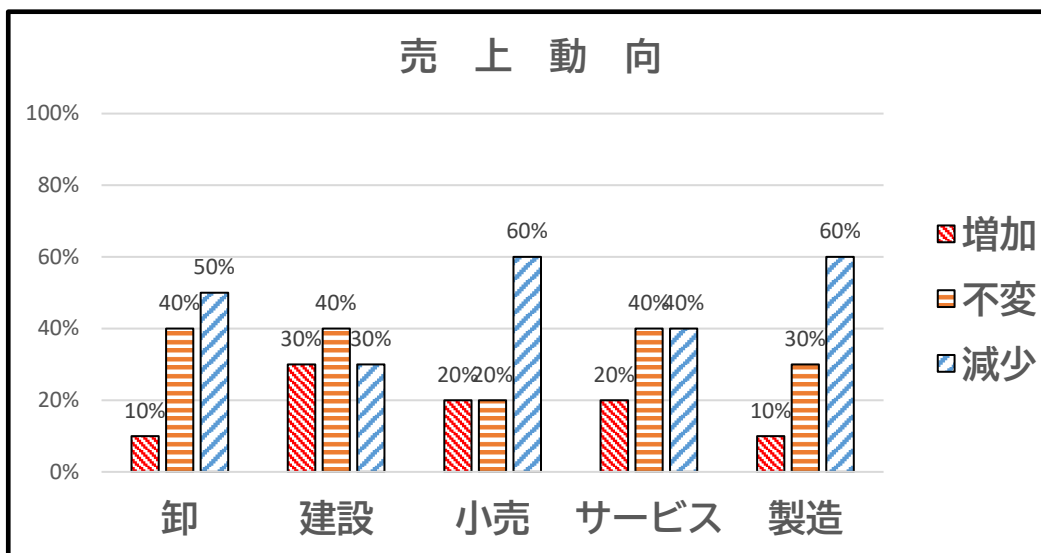
余市商工会議所 企業景況調査（2021上半期）

【調査内容】今年に入りどのように推移しているのか①売上動向、②販売価格、③仕入価格、④客数、⑤客単価、⑥利益動向、⑦雇用状況、⑧景況感、⑨見通し(10～3月)について調査を実施した。

(調査対象は卸・建設・小売・サービス・製造の5業種で全50社) 2021.10調査

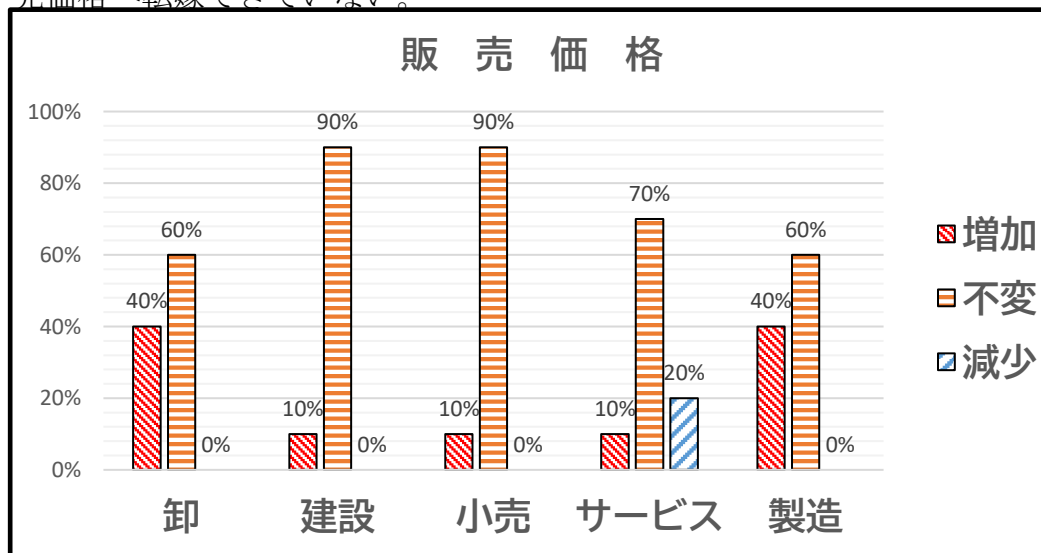
①売上動向について

売上動向については、建設業を除いて8割以上の事業所が対前年で不変もしくは減少していると回答しており、コロナ禍で落ち込んだ分の持ち直しには未だ時間がかかりそうである。



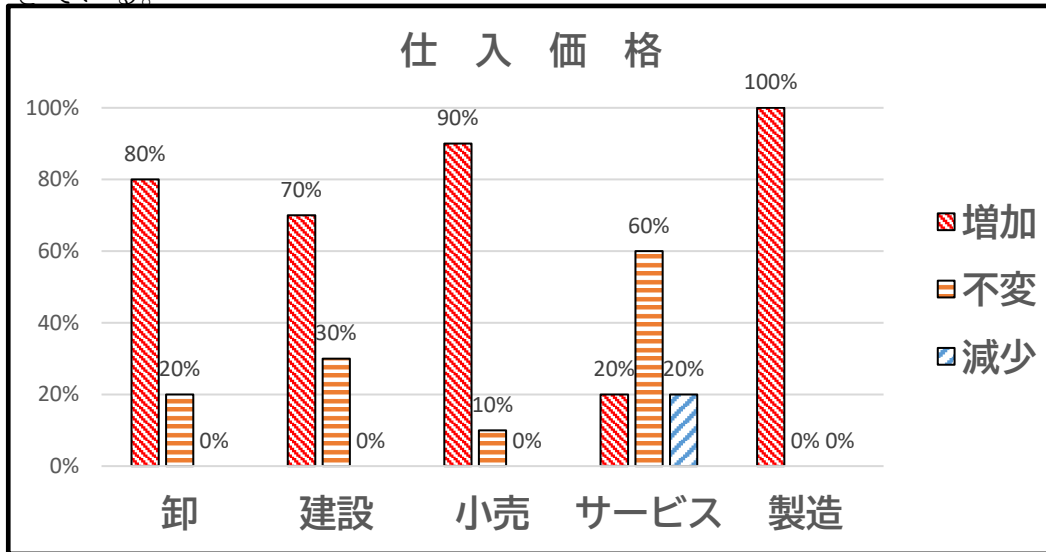
②販売価格について

販売価格については、以前の調査とほぼ変わらず全業種で不変の回答が最も多かった。後述の通り多くの業種で仕入価格の上昇がみられ、製造・卸売業では値上げに踏み切った企業も4割程みられるものの、多くの事業所では販売価格へ転嫁できていない。



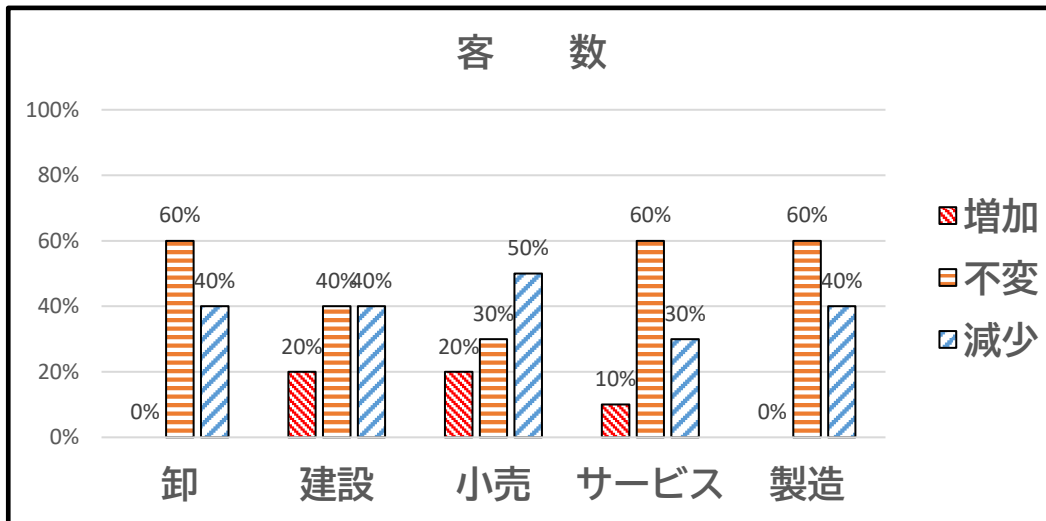
③仕入価格について

仕入価格については、サービス業以外の業種で増加したとの回答が7割以上を占めている。前年から価格上昇の続く建設部材のみならず、今年に入って食品関連の原材料でも価格が上昇し、その影響が卸・小売業種にも波及してきている。



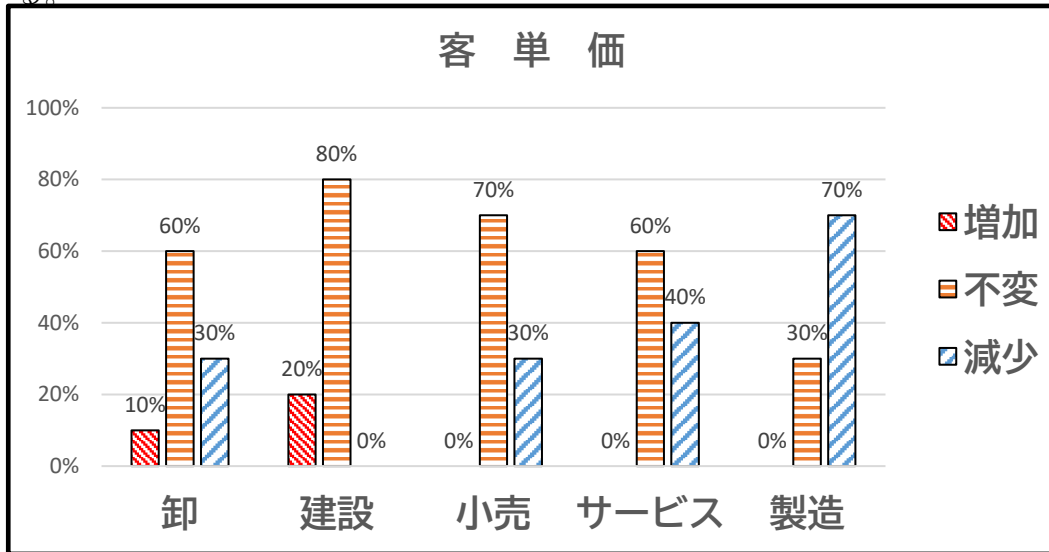
④客数について

客数については、減少に歯止めがかかりつつあるものの、5～6月・8～9月と2度の緊急事態宣言に伴う外出自粛要請の影響を受けた小売業（飲食含む）では、半数近くの事業所が減少と回答している。



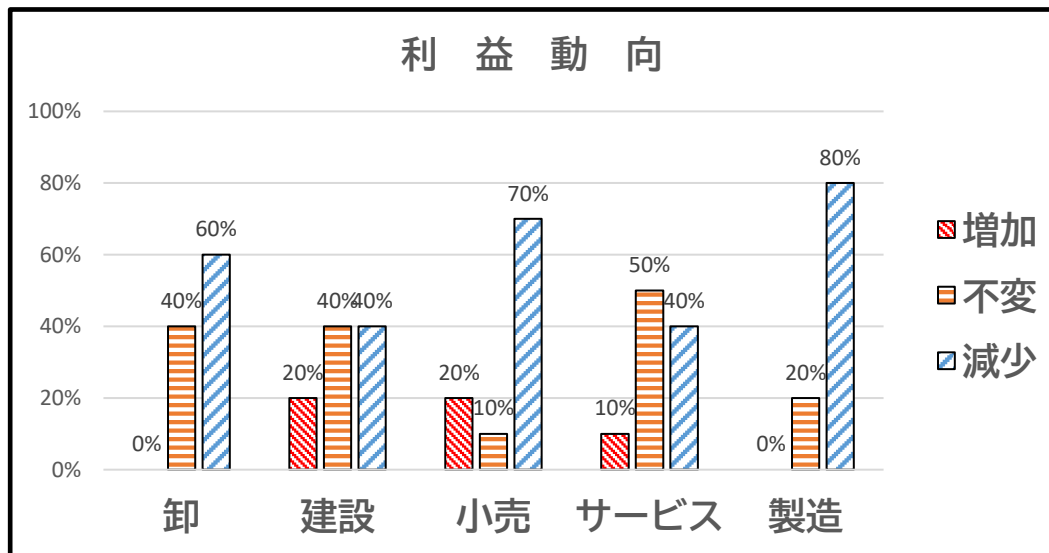
④客単価について

製造業で客単価が減少したとの回答が7割を占めており、BtoBの業種において需要に冷え込みの傾向が見られる。その他の業種では不変との回答が半数以上あり、一般消費者の需要減傾向にはある程度の歯止めがかかっている。



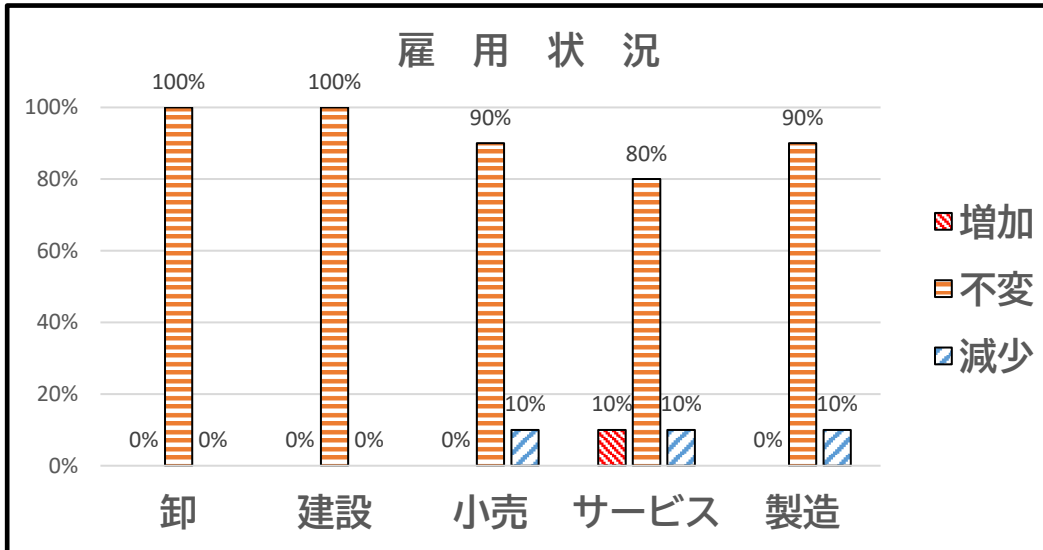
⑤利益動向について

利益動向については、卸・小売・製造での減少が続いており、仕入価格上昇の影響が色濃く見受けられる。一方、主に住宅関連の事業所では利益が増加したところも少数ながら存在する。



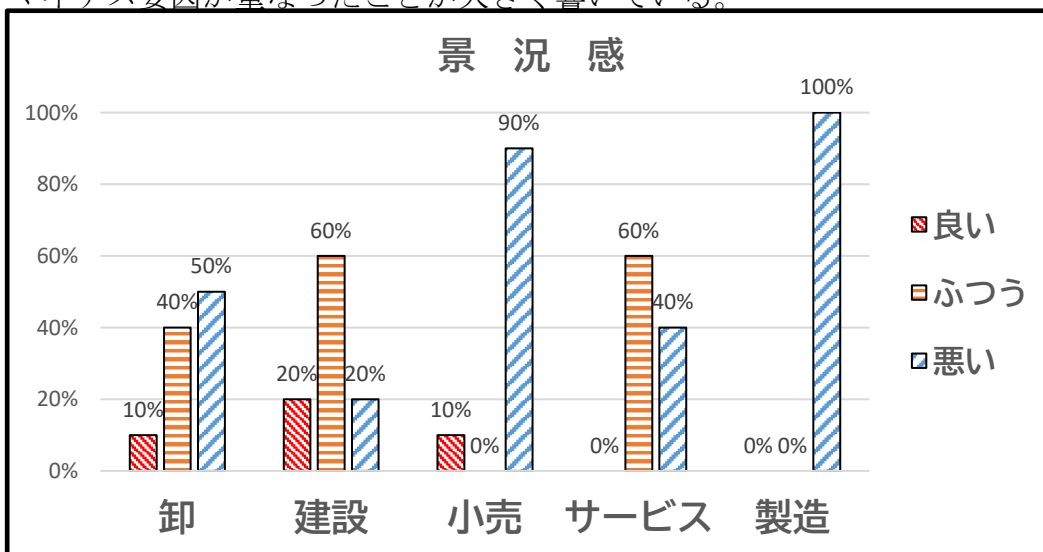
⑥雇用状況について

雇用状況については、全業種とも不変の回答が最も多く、雇用は今のところ維持されているといった状況である。



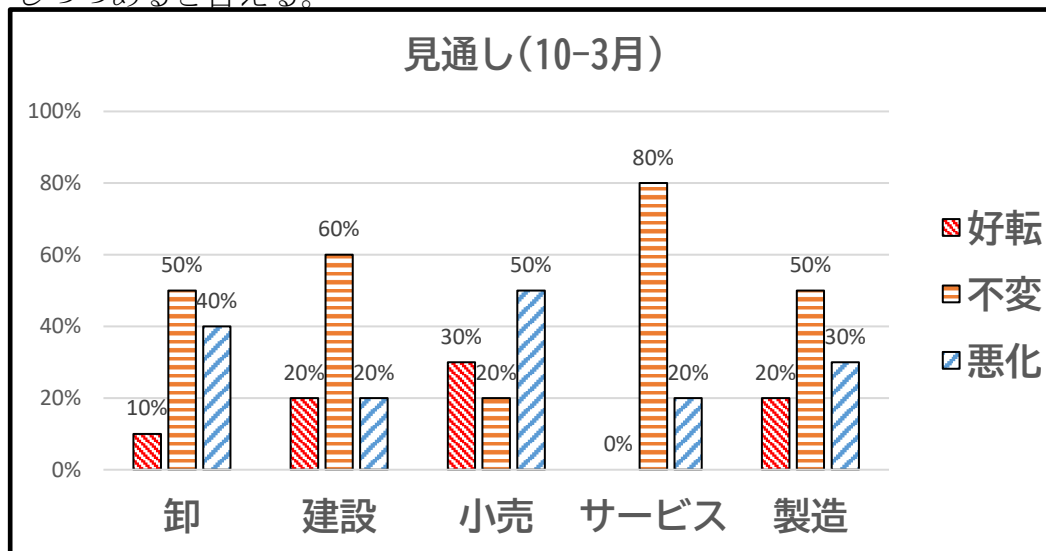
⑦景況感について

景況感について、「良い」と回答した事業所こそ少ないものの、業種によって傾向がはっきりと分かれている。特に、小売業で9割、製造業では全ての事業所が「悪い」と回答しており、売上減少・仕入価格上昇といった複数のマイナス要因が重なったことが大きく響いている。



⑧見通し(10-3月) について

見通しについては、人流の影響を大きく受ける小売業を除いて「不変」との回答が最も多く、悪いながらも底が見えてきた感覚が着実に広まっている。2度の緊急事態宣言があった今期ではあるが、コロナ禍の環境に企業も対応しつつあると言える。



経営動向調査にご協力頂きありがとうございました。

当会議所としても、新型コロナウイルスで影響を受けている事業所の皆様のお力になればと、引き続き、各種セミナー・講習会の開催、情報提供等行ってまいりますので、ぜひご活用ください。